

ベルギーニュース

安楽死数安定

2016年の安楽死数は、2,024件と前年比を0.15%上回るに止まった。安楽死は、肉体的、精神的に苦痛を伴う不治の病に適用され、書面にての申請が必要である。一般に注射による方法で対応され、費用は€25前後である。入院中に対応される場合は、死亡後に病院から請求書が送られ、遺産相続時に支払い処理がなされる。2016年には、ベルギーで初めて未成年者の安楽死が行われた。ベルギーは、世界唯一未成年者の安楽死を法的に認めている国である。



抗議デモ

5/24-25に北大西洋条約機構の会議に出席のため来白するアメリカ大統領ドナルド・トランプに抗議するため、5/24にデモを行うことがFacebookを通して呼びかけられている。抗議内容は、軍事力に抵抗することによる地球の平和追求、人権・性差別・人種差別との闘いである。トランプ大統領は、ベルギー首相シャルル・ミシェルとも会見する予定。

予防接種は効果的

フランスに比べ1月初旬の流行性感冒は落ち着いており、3週目に入りインフルエンザA型(H3N2)の患者は10万人中140人確認された。ベルギーでは、既にインフルエンザA型2種とB型1種の三価ワクチンおよびインフルエンザA型2種とB型2種の四価ワクチンを利用できる。今後は2018年に向け四価ワクチンが主流となると期待されている。研究調査によると、四価ワクチンにより10年来のインフルエンザ患者1万5千人を救えたはずだという。ルーヴァン大学の微生物・免疫学の教授は、予防接種で2014-2015年に起こったような多くの死者を減らすことができると意見を述べた。



中国新年

1/28、中国大使館とブリュッセル市の共同企画で、グランプラスで昨年に続き新年祝賀行事が行われた。1,000人以上のアーティストによる伝統舞踊やスペクタクルを披露しながらのパレードは、中国の衣装を着ている小便小僧を經由してモネ広場を通過しブルス広場へと続いた。中国側からは、遠く上海、深圳からパレードに参加した。中国とベルギーの友好を広め、異国の文化に触れたいベルギー人の希望に応えたとブリュッセル市文化担当者は語った。



子どもの肥満

6歳までの肥満は成長過程であるので心配はないが、それ以降は注意が必要である。しかし、両親が肥満系である家庭の子どもは、子どもだけでなく親の生活習慣にも関心を示すべきである。改善策としては、否定的な表現を避け、親子で一緒に健康管理をしようと好意的に子どもを引きつける必要がある。食生活を見直し、体重減量だけでなく身長が伸びるよう働きかけることも有効策である。例えば、大好きなピザだけを食べるのではなく、一緒に野菜サラダを取って消費カロリーを減らし、時間をかけて減量にチャレンジするなど効果的だ。



インフレ最大に

ベルギー経済省によると、1月のインフレは昨年12月の2.03%に比べ2.65%と2012年2月以来最高になり、ユーロ圏内の最高値に達した。第一の原因は、エネルギー資源の価格上昇による。電気は昨年に対し19.4%増加し、ガスや軽油の減額にも関わらず、燃料は昨年比18.5%増額した。その他、野菜、アルコール、水、通信費、休暇村などの費用が増加したが、航空券は減額している。



14歳の作家

Florian Mastroserio君が14歳でパリの出版社から小説を発表した。約200ページの「殺人-完璧な犯罪」という作品は、書店をはじめ、FnacやAmazonからも購入できる。サッカー好きの弟に対し、彼は無人島に行くならアガサ・クリスティーとハリーポッターの作者ジョアン・ローリングの小説を持って行くというほど常に探偵小説にのめり込んでいた。昨年の夏季休暇中にこの小説の第1章を書き始めた時、既にシナリオは全て頭に入っていたそうで、1カ月弱の休暇中に書き上げたという。自分で読みたいと思う作品を作ったそうで、既に「死の約束」という2作目の準備も進んでいる。

